

第1回 県内国公立大学薬学部設置推進協議会 主なご指摘事項等

(開催概要)

日 時 2022年9月30日(月) 10:00～12:00

会 場 沖縄県市町村自治会館

参加者 協議会資料：委員名簿(出席者名簿)に記載のとおり

(主なご指摘事項等)

1. 薬学部設置の意義と期待される役割

(1) 薬学部設置の意義

- ・ 薬剤師の「地域偏在」は重要なキーワードになっている。厚労省が将来の薬剤師数を過剰供給としているなか、薬学部を新設する意義として、薬剤師の地域偏在の解消を位置付けることが重要である。
- ・ 薬剤師不足の解消、偏在の解消は県の最重要課題であり、年間どれだけの卒業生が県内の薬剤師として働く必要があるか、具体的な数値を明確にした方がよい。
- ・ 大学の建学の精神をしっかりと踏まえるとともに、地域に求められる薬剤師の育成という設置の目的を明確にすることが望ましい。
- ・ 国家試験合格だけを目指すのではなく、地域の産業界が求める高度な薬学人材の育成も視野に入れた薬学部設置が求められる。

(2) 薬剤師の不足や県内での偏在の解消

- ・ 薬学部の設置は、薬剤師(行政薬剤師を含む)の不足や県内での薬剤師の偏在の解消につながる。
- ・ 特に病院での薬剤師確保が困難である状況は、沖縄県だけでなく、全国に共通する問題であるが、沖縄県では業務が回らないほど薬剤師不足が顕著になっている。
- ・ 沖縄県では、薬剤師の存在意義や仕事の内容が、高等学校までの教育の中で十分に伝わっていないのではないかと。これには、県内に薬学部がないことが影響している。

(3) 地域の研究機関・産業等との連携

- ・ 沖縄科学技術大学院大学(OIST)の研究を下支えするような基礎研究を県内国公立大学に設置される薬学部が担い、連携が進むことを期待している。
- ・ 地域との連携という観点では、薬学部ができることにより、化粧品開発の共同研究等で、一層の連携強化が期待できる。新たな産業である再生医療分野における薬剤師の活躍も期待したい。

(4) 沖縄の立地や地域特性を活かした薬剤師の養成

- ・ 観光客の国際的なハブという地理的特性をもつ沖縄県は、新興感染症に関わる薬剤師の養成や、外国人の受け入れに慣れた薬剤師の養成に適した環境にある。

(5) 沖縄県の保健・医療・介護等の環境の向上

- ・ 薬学部の新設は、地域包括ケアシステムにおける在宅患者への服薬指導によるポリファーマシーの解消などにもつながる。
- ・ 地域の実情に合わせて、医師、看護師等の業務のタスクシフティングにより新しく出てくる業務などにも対応できるような薬剤師を養成していく必要がある。
- ・ 医師や看護師、歯科医師など、他学部・他職種と薬剤師との連携は、まだ十分ではないため、これを一歩進めるためにも、薬学部という核になる組織が必要である。

2. 薬学設置に当たっての費用面等の課題

- ・ 薬学部設置と設置後の運営に必要な費用の確保、大学の定員増加が容易でないことなどが課題である。
- ・ 和歌山県立医科大学では、県が薬学部の設置を決定した段階から、県の全面的な支援があった。
- ・ 山陽小野田市立山口東京理科大学では、施設整備は市が行っている。

3. その他

- ・ 文科省は、原則として薬学部新設を認めないとの方針を示しているが、薬剤師の地域偏在の解消が必要な地域については、一定の期間において、例外措置としての設置を認めるとしている。沖縄県内での薬学部新設の時期を早急に明確化する必要がある。

以 上